琵琶湖疏水
LAKE BIWA CANAL

日本遺産
JAPAN HERITAGE

そすいさんぽ
CANAL WALK
鴨川運河コース
Kamogawa Canal Course





コラム

6 墨染発電所

墨染発電所（旧伏見発電所）は、大正3（1914）年に完成しました。伏見インクラインの上下2箇所には船溜まり（ダム）があり、この落差を水力発電に利用しました。上ダムには土留めのために植えられた桜の木があり、今も春になると見事な花を咲かせてくれます。



7 伏見インクライン跡

明治28（1895）年に完成した伏見インクラインでは、墨染発電所ができるまで、船を乗せた台車を水車の力で動かしていました。長さは約290m、高低差は15mあり、1日百隻もの船を運んでいました。昭和18（1943）年に運行休止となり、現在は国道24号が通っています。



8 いものや橋

第1疏水は、いものや橋周辺で濠川（伏見城の外堀）につながります。ここが琵琶湖疏水の終点です。その先の三栖閘門を経て宇治川、淀川と大阪までの物流ルートが整っていました。琵琶湖の水は疏水によって大阪湾まで、つながっているのです。



9 伏見十石舟

明治時代まで伏見～大阪を行き来していた舟を再現しています。月桂冠大倉記念館裏の乗船場を出発し三栖閘門で下船。三栖閘門資料館などを見学後、元の乗船場まで戻るコースで、酒蔵と柳並木の風情ある旅を楽しむことができます。



発行：琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会（京都市上下水道局）　発行年月：令和７（2025）年１月

コラム

❶ せせらぎの道


五条大橋南側から（京阪本線地下化前。昭和63年頃）

鴨川運河は、三条通付近で暗きょ（地下水路）となり、塩小路橋から再びその流れが姿を現します。暗きょ化の工事は、京阪本線の地下化に伴い昭和63（1988）年に行われたもので、せせらぎの道はそれに伴う川端通の整備・拡張事業の一環として誕生しました。

❷ 松風橋（しょうふう）



鴨川運河が開通すると、沿線に工場が立ち並びます。その一つが、松風陶器合資会社（現在は歯科材料メーカーの松風）です。元々は清水坂で陶磁器を作っていましたが、交通の不便さや疏水を利用した運搬への期待から、この橋の左岸に移転しました。

❸ 市電稲荷停留所跡



かつて疏水の上に「駅」があったのをご存じでしょうか？昭和40年代までは京都駅から伏見稲荷まで市電が往復し、疏水の稲荷橋上が終点の稲荷停留所でした。現在は公園となり面影はありませんが、端にちらりと覗いたレールが当時、確かに市電が走っていたことを物語っています。

鴨川運河とは

第1疏水のうち、鴨川に平行して南に流れる運河で、いものや橋周辺（伏見区堀詰町）まで全長約9kmあります。大津から大阪までの舟運を開通するうえで、疏水を淀川に接続するための重要な区間となりました。特徴ある橋が数多く架かっており、春には運河沿いを、桜を見ながら歩くことができます。



❹ 高松橋ひろば



十条通の高松橋東詰に令和2年に完成した「高松橋ひろば」。ひろばには、旧高松橋の橋脚のマーク、石製の親柱や高欄が残されており、昔の面影を感じることができます。

コラム